

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

福岡県 広川町

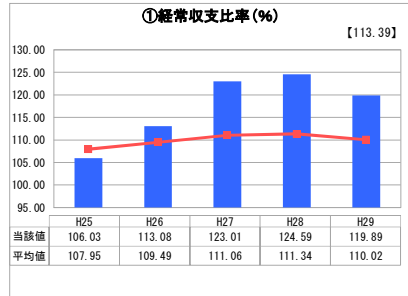
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	83.02	70.86	4,370	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,811	37.94	522.17
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
13,983	18.36	761.60

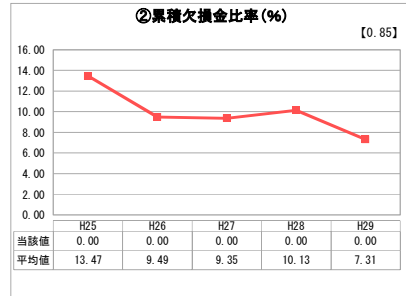
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

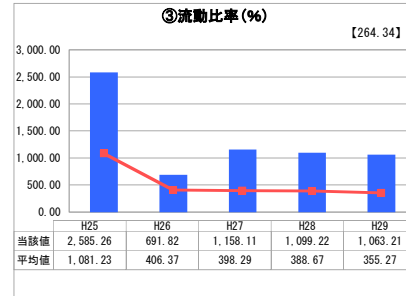
## 1. 経営の健全性・効率性



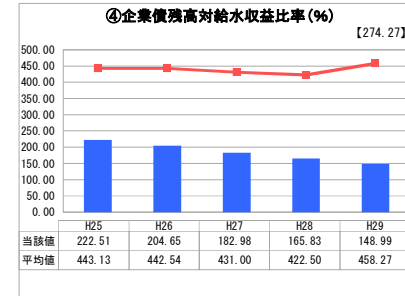
「経常損益」



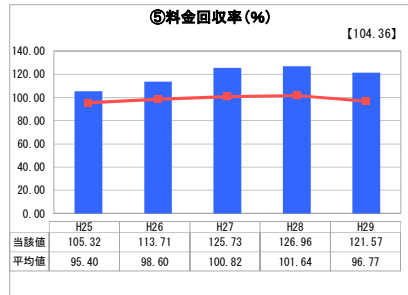
「累積欠損」



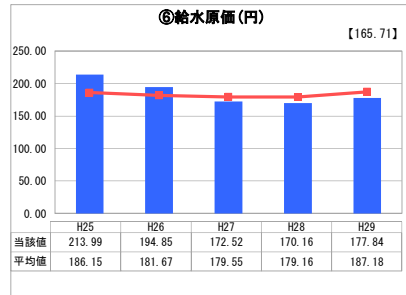
「支払能力」



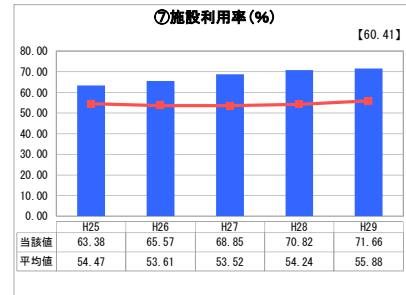
「債務残高」



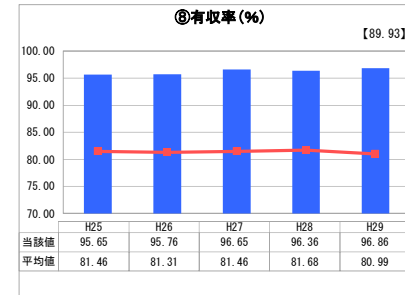
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

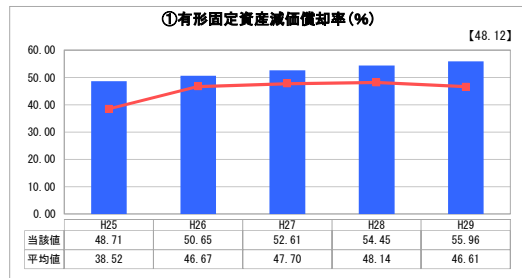


「施設の効率性」

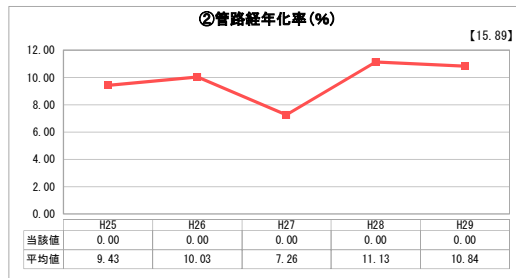


「供給した配水量の効率性」

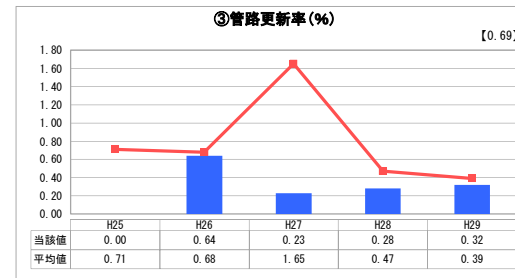
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

近年、一部施設の修理等で経費が増加した部分があるが、各指標で示されている値について、経常的な経営の健全性は保たれていると認識しています。分譲地における住宅や共同住宅の新築に伴い、給水量は増加傾向にあり、料金収入も増加していますが、全体普及率が70%付近にとどまっており、地下水利用世帯の加入増、利用促進をしていかなければなりません。

### 2. 老朽化の状況について

創設事業(平成4年度～平成11年度の8カ年、及び平成22年度の一部区域拡大)で施設の整備を完了し、更新の時期はしばらく先になると考えています。ただし、地域整備公園による昭和58年布設の工業団地内老朽管の更新を平成26年度～30年度で実施しており、計画どおり完了する予定です。今後、施設の設備・機器類の更新を予定していることもあり、全体的な老朽化の現状を認識して、更新計画を検討することで、事業費の平準化を図る必要があります。

### 全体総括

現在は比較的安定している財政状況と考えますが、将来の人口減や施設更新、水源確保に伴う支出などに備えた財政計画・維持管理・更新計画を立案する必要があります。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。